

内閣府における取組紹介



令和元年6月4日

内閣府 大臣官房 審議官 佐藤 文一

要約

- Society 5.0はいよいよ実証から実装段階。しかし、これを一気に社会に展開することは困難。
- まずは一定の地域（スマートシティ、スマートカントリー）において実証・実装。
これを横展開しながら、全国にSociety 5.0を展開。
- このため、次の対応を政府一体となって推進。本年度の各府省事業から適用。
（SIP補正予算：2019年度執行）
 - **共通アーキテクチャを構成し、相互運用性や技術の進展に伴う機能の拡張性を確保**
 - SIP 1期・2期（2014-22年度）等で開発された、分野ごとのデータ基盤も連結
 - **法制度等のルール、ビジョン実現やデータ基盤の運営に必要な組織なども一体的に整備**
 - パーソナルデータ流通のアーキテクチャ（情報信託等）について、実証を踏まえ構築
- 得られた成果を海外にも展開し、海外の都市との間でも相互に知見を共有。
 - G20大阪会合を契機に、各国の成功事例、データ連携基盤の考え方等の知見を共有するプロセスを構築。
 - 二国間・多国間の連携・協力等を推進。

府省連携における共通の基本方針

ビジョンの明確化

- 具体的なニーズを踏まえ、達成すべきビジョンと当面の実現目標を明確化

アーキテクチャによる全体俯瞰

- 都市のレイヤーごとに各層の構成要素と互いの関係性を可視化

相互運用性の確保

- データの取得・受け渡し等における相互運用性を確保
- 現行の標準等については、最大限に活用

拡張性の確保

- 技術進展等に伴い、個別要素をアジャイルに追加・更新
- 新しいサービスの参入やスタートアップの立ち上げ等を阻害しない

組織・体制の整備

- 住民参画、産学官連携の下、技術・システム開発、法制度等のルール整備、運営に必要な組織の整備等を一体的に実施

各府省の役割分担

社会制度、ルール

「スーパーシティ」構想の実現【内・地方】

地域限定型のサンドボックス制度による規制特例等も活用した、先進技術の実装による地域課題の解決【内・地方】

サービス、ビジネス

広い分野を対象とした実証・実装【総、国】

特定の分野（エネルギー、交通等）を対象とした実証・実装【経、国】

スマートシティのデータ利活用基盤の構築【総】

スマートシティ関連の都市インフラの整備【国】

アーキテクチャ、Society5.0データ連携基盤

アーキテクチャの構築
検討会議（内・総・経・国等）の開催【内・科技】

大都市

地方小都市

コミュニティ

空間軸

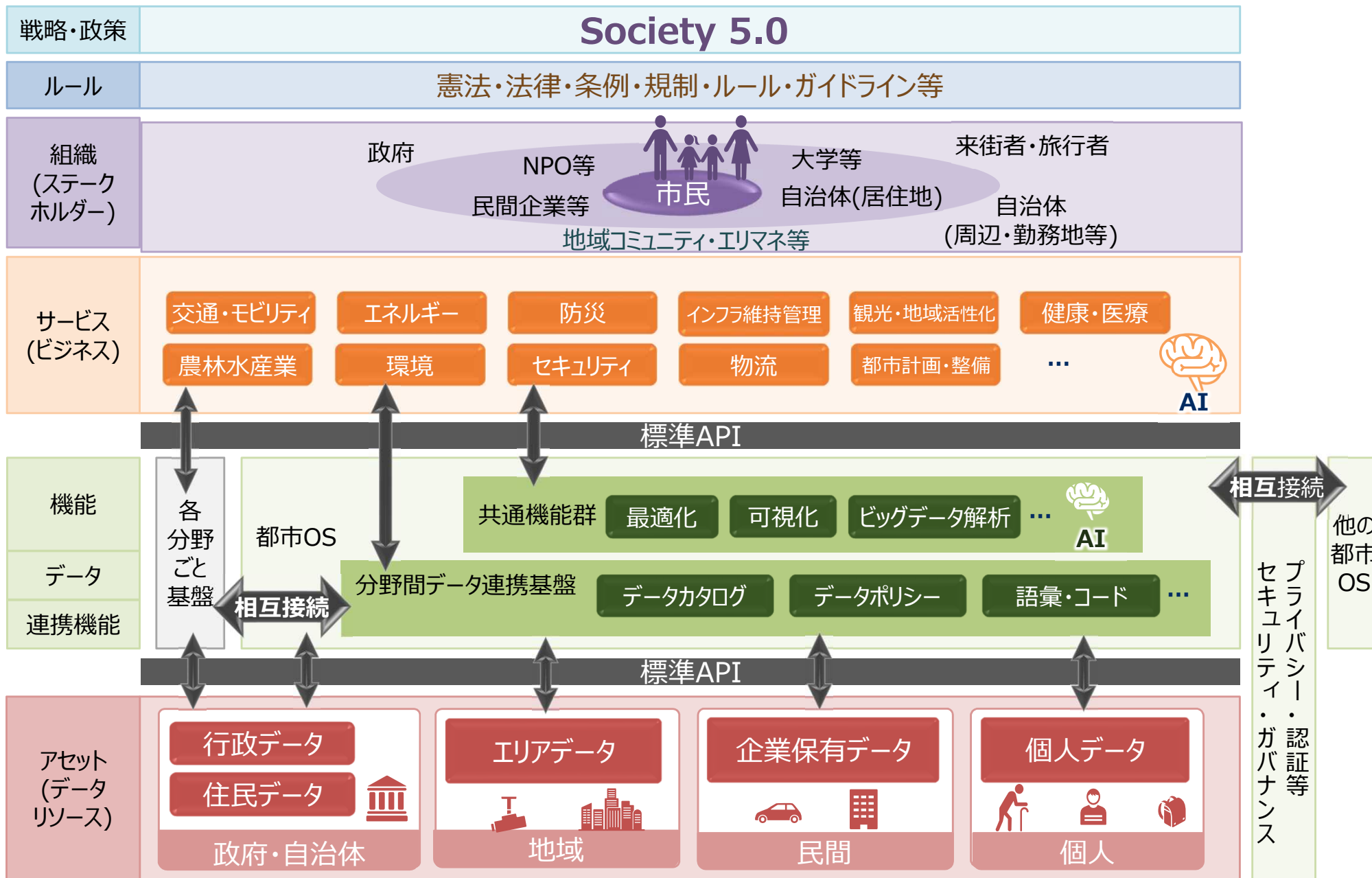
インターネット

官道連携

スマートシティ

交通

スマートシティのアーキテクチャのイメージ



戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）データ連携取組

SIP第1期（2014-18年度）

各分野でのデータ連携	到達すべき姿	取組成果
モビリティ	自動運転とシェアリングや公共交通の組合せにより、人とモノのスムーズな移動を実現	ダイナミックマップ（工事、渋滞等の情報を紐づけた高精度3次元地図）の基盤を整備
防災	平常時／災害時を越えたデータ連携の実現による災害被害軽減・生産性向上の実現	基盤的防災情報流通ネットワーク（SIP4D）を、2016年の熊本地震以降の主な実災害において実用
農業	国内外の市場や消費者のニーズに機動的に応えるスマートフードチェーンシステムを構築	農業データ連携基盤を構築

SIP第2期（2018年度）成果

分野間データ連携	到達すべき姿	取組成果
「ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」	様々な分野のデータが垣根を越えてつながるデータ連携基盤を整備し、2022年度までに本格稼働	分野間データの相互連携を可能とする全体計画を提示

SIP第2期補正事業（2019年度）

「アーキテクチャ構築と実証事業の推進」	各分野のシステムを一体的・統合的に都市へ導入し、都市の社会課題の解決に貢献	スマートシティ分野、パーソナルデータ分野、地理系分野（自動運転、農業、防災）の3分野にてアーキテクチャ構築と実証の公募を開始
---------------------	---------------------------------------	--